

NaClO₂ 亜塩素酸ナトリウム

発色：無色→黄→橙→赤茶

測定原理：よう化カリウム法

測定範囲：2～500 mg/L (ppm)

試薬：WAK-NaClO₂ K-1 (滴ビン)、チューブ

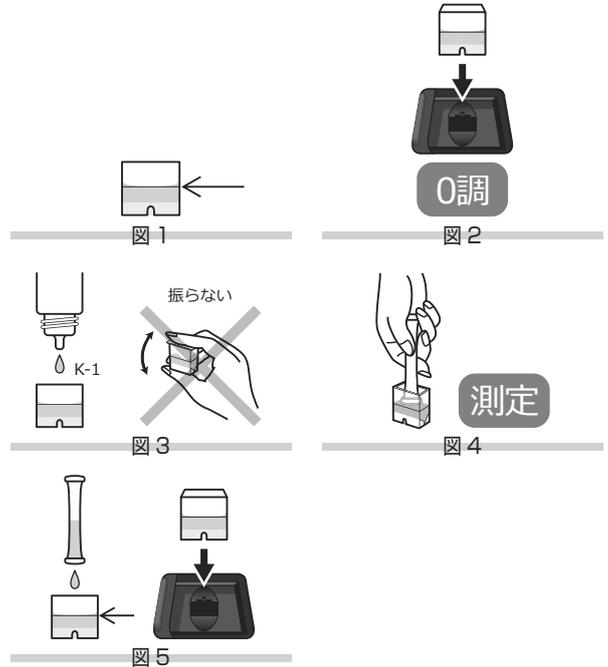
測定時間：チューブに吸い込み後 1分

セル：専用カップ

使用波長：470 nm, 600 nm

測定方法

1. 【NaClO₂】を押します。
2. 【決定】を押し、測定画面に切替えます。
3. 検水を、専用カップに1.5mL(線まで)採ります。(図1)
4. 専用カップをセルボックスに入れ、【0調】を押します。(図2)
5. K-1 試薬を4滴加えます。(図3)
6. すぐにパケットのチューブに、専用カップの検水を全量吸い込み、同時に【測定】を押します。(図4)
7. 6. のチューブを軽く5～6回振り混ぜて、すぐに専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻し、セルボックスに再びセットし静置します。(図5)
8. 経過1分後に濃度が自動表示されます。



注意

1. この方法では、残留塩素、二酸化塩素も測定されます。
2. 測定時は塩素ガスが発生するおそれがありますので、必ず換気しながら測定してください。
3. 発色時の最適 pH は 1 です。pH 10 以上の検水は希硫酸で中和してから測定してください。
4. 検水の温度は 15～30℃ で測定してください。
5. 「測定方法」5. で K-1 試薬を添加した後は振りまぜず、すぐにチューブに吸い込んでください。振ったり、時間をかけると測定値が低くなる場合があります。

共存物質の影響

内蔵の検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準液添加法により測定値を確認してください。

右表は、標準液に単一の物質を添加した場合の測定値への影響データです。

海水および水道水は影響しません。

残留塩素、二酸化塩素も同様に発色して測定されます。また、過酸化水素などの、酸化性物質は正の誤差を生じます。

Fe²⁺、NO₂⁻等の還元性物質は、亜塩素酸ナトリウムを消費します。NO₂⁻は酸化剤としても働き、正の誤差を生じる場合があります。

検水にでんぷんを含む場合には、発色が茶色～黒色になり測定できないことがあります。

1000mg/L以下は影響しない	…Al ³⁺ 、B ³⁺ (ほう酸)、Ca ²⁺ 、F ⁻ 、I ⁻ 、K ⁺ 、Mg ²⁺ 、Mn ²⁺ 、Mo ⁶⁺ (モリブデン酸)、Na ⁺ 、NH ₄ ⁺ 、Ni ²⁺ 、NO ₃ ⁻ 、PO ₄ ³⁻ 、SO ₄ ²⁻ 、Zn ²⁺ 、アミノ酸、塩素酸ナトリウム、グルコース、シリカ、フェノール
100mg/L	// …陰イオン界面活性剤
20mg/L	// …アルブミン
10mg/L	// …Ba ²⁺ 、でんぷん
5mg/L	// …Cu ²⁺ 、Fe ³⁺
1mg/L	// …Fe ²⁺ 、残留塩素
少しでも影響する	…Cr ⁶⁺ (クロム酸)

試薬に関するお知らせ

パケットに付属の使用法をご参照ください。

K-1試薬および測定液は約 pH1 です。